

平成二十九年学位記・修了証書授与式

式辞

本日ここに学位記を授与された皆さん、修了証書を授与された皆さん、まことにおめでとうございます。また、今日まで学生の皆さんの勉学を支援してこられたご両親、ご家族の方々にも心からお祝いを申し上げます。また、ご多忙中にも関わらず、本日の式典にご臨席たまわりましたご来賓の皆様方にも厚くお礼申し上げます。

本学は創立以来百三十七年に亘り、「一般教養とともに、理学、薬学及び工学の原理及びその応用を教授研究し、人格高く、かつ、応用力に富む有為の人物を育成して、文化の進展に寄与すること」を目的として、多くの理工系人材を輩出してまいりました。卒業生の方々は優秀な研究者・技術者として企業や研究機関で活躍するほか、官公庁を始め各方面でも活躍されています。特に本学の教員養成は高い評価を受けており、中学校・高等学校など教育界での東京理科大学への信頼は絶大なものがあります。

本学の学位記・修了証書を手にしたということは、皆さんが本学伝統の「実力主義」の下で、それぞれの専門的知識を修得し、また多くの友人や教職員との触れあいの中で、人間的にも立派に成長したことを証明するもの

です。

これは皆さんの社会的信用を裏付ける一方で、皆さん自身も本学の卒業生としてその名に恥じない活躍をする責任を負ったことにもなります。どうか自信と誇りを持って新しい人生に船出してください。

さて、皆さんの卒業にあたり、私から伝えたいことがあります。それは、できる限り多くの本を読んでもらいたい、ということなのです。

近年、本を読まない日本人が増えてきていることは、皆さんご存知のとおりです。文化庁の調査では、まったく本を読まないという人が半数近くに上るといふ結果が出ており、七割近い人が以前と比較して「読書量が減っている」と回答しています。インターネットの発達により、時間をかけて本を読まなくても、自分が欲しい情報に容易にアクセスすることが可能になったことも大きく関係しているのかもしれませんが。

確かにインターネットは便利です。これからの時代に生きる皆さんは、今まで以上に、情報通信技術社会の中で生きていくことになるでしょう。しかし、読書を通じてしかできないこともあります。例えば、伝記を読んで昔の偉人の人生に向き合ってその考えに触れ、自分の見識、教養を深めることは、SNSでの短文のやり取りではできません。また、文献の全体を読むことをせず、インターネットに引用されている断片的な情報を安易に信用することで、全体の文脈を理解できずに誤った認識を持ってしまう危険性もあり

ます。

私自身、長く研究者として過ごしてきましたが、自分の専門分野にこだわらず、小説、伝記、絵本まで様々な本を読んできました。読書を通じて、豊かな感情や多くの感動を得、また様々な出会いを得ることもできたのです。

実は、良い本を読みましよう、という話は、四年前、平成二十六年の入学式でもさせていただきました。本日卒業の日を迎えている皆さんの多くは、四年前の入学生ですので、覚えている方も多いと思います。大学生活で皆さんは良い本に出合えたでしょうか。良い本に出合えた、という人は、これから社会に巣立ち、生活が変わってもその習慣を継続してください。また、あまり本を読んでこなかった、という人は、これからは少しずつでも読んでみてください。

私は月に一度くらい大きな本屋に行きます。ぐるりと本のタイトルなどを見てまわると、新しい本のこと良くなります。また公立の図書館にもよく出かけます。図書館には良書として知られた本がそろっていますので、興味があるものを借りてきて読みます。

ぜひ皆さん、良書をゆっくりと味わいつつ読むという習慣を身につけてください。今日の私の話を皆さんが何かの折に思い出し、本を一冊でも多く手に取ってもらえたら、これより嬉しいことはありません。

私が読書を通じて出合った言葉を、二つほどご紹介しましょう。

フランスの哲学者でまた数学者であったルネ・デカルトが「日々に新たに」
として、次のように言っています。

「一日一日を大切にしなさい。毎日のわずかな差が、人生にとって大きな差
となって現れるのですから。」

デカルトの「哲学の原理」という名著がありますが、この本はアイザック・
ニュートンも愛読したそうです。皆さん、よくご存じのとおり、万有引力の
法則を見出し、また微分積分学を提案したニュートンですが、次のような名
言も残しています。

「今日なしうることだけに全力をそそげ、そうすれば明日は一段の進歩を
見るだろう。」

彼らの言葉は、今に至るまで私の人生の大きな指針となっています。

皆さんの母校、東京理科大学は、良心を持った科学者、技術者、教育者を
養成し、秀れた教育・研究を通して社会に貢献する大学として、今後ますます
ます評価を高める努力をしています。皆さんが本学で培った高い専門
性を活かし、社会で活躍することと、本学の進化が相俟って本学のブランド
力がさらに高まり、それが皆さんの更なる自信と誇りにつながるという相
乗効果を生み出していきたいと思えます。どうか卒業後も折にふれて大学
時代に思いを馳せ、母校の発展を温かく見守ってください。

本学では毎年秋に多くの同窓生を母校に迎えるホームカミングデーを開催しています。昨年は創立五十周年を迎えた理工学部を中心に、野田キャンパスで行い盛会でした。今年には神楽坂キャンパスでの開催が予定されています。ぜひこのホームカミングデーにも積極的に参加いただき、友人や恩師と旧交を温め、卒業生の絆を深める機会として利用してください。大学在学中に築いた交友関係は一生の宝となるものです。

さて友と言えば論語で孔子は次のように言っています。

「益者三友、損者三友。」

直を友とし、諒を友とし、多聞を友とするは益なり。

つき合ってためになる友人が三種類、ためにならない友人が三種類いる。

ためにならない友人はさておき、ためになるのは、剛直な人、誠実な人、博識な人であるという意味です。

人間の活力の源泉は心身ともに健康であることにあります。健康を保つためには、折に触れて心身の休養をとるすべを心得ることが重要です。最後に、健康には十分留意されることをお祈りして、式辞といたします。

平成三十年三月十九日 東京理科大学 学長 藤嶋 昭